

循環経済への対応



事業活動における廃棄物量の抑制



製品の省資源化量の拡大



事業活動における廃棄物量の抑制

廃棄物削減の推進

製品の製造に伴って発生する廃棄物は、構成する部品、材料であるガラス、金属、プラスチックと付帯設備から発生する汚泥などがあります。2024年度の廃棄物総発生量原単位は、目標98%以下に対し、実績98%と目標どおりとなりました。（いずれも2022年度比）

各工場では、歩留まり向上による不良品削減およびリサイクルに取り組むことで、循環型社会の実現に向けた3R※1を推進しており、目標達成に努めます。

※1 ①Reduce=リデュース（できるだけ廃棄物を出さない）・②Reuse=リユース（再利用）・③Recycling=リサイクル（資源などの再生利用）



事例：今治事業所 廃プラスチック廃棄物削減

物流部門では部材搬入時に梱包されている緩衝材を出荷の際に再利用し、プラスチックの再利用量について月25kg目標に対し、2023年度では300kgの再利用を達成しました。



部材搬入時に梱包されている緩衝材



緩衝材を再利用している様子

製品の省資源化量の拡大

省資源の推進

当社は、環境調和型製品への取組として循環型社会構築に求められている3Rへの対応を推進しています。廃棄物の発生抑制では、商品の小形化、長寿命化、分解性の向上、リニューアル対応を進め、使用済み製品では、リサイクル・回収資源再利用に向けた技術開発に取り組んでいます。また、省資源化量※1の拡大にも貢献し、資源の有効活用に努めています。2024年度の省資源化量は、目標29.3千t以上に対し、実績は29.2千tと目標未達でしたので、次年度の計画達成に向けて改善に取り組んでいます。

※1 算出方法は次のとおり。

代替想定製品の資源投入量－出荷製品の資源投入量（同じ期間での製品寿命期間分の資源投入量を比較し、製品寿命の半分を累計）

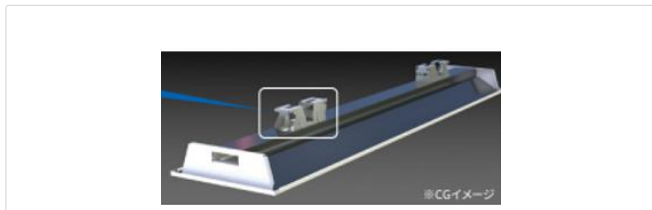


事例：LEDベースライト TENQOOシリーズ リニューアル器具、リニューアルキット

リニューアル器具に関してはコンパクトな梱包により梱包廃棄量の削減しております。

リニューアルキットに関してはLED器具へのリニューアルの際に蛍光灯器具本体を流用することで、器具ごと交換するよりも製品の廃棄量を削減することができます。

例えば、器具本体（1.8kg）と反射板（2.3kg）、合わせて4.1kgの既設蛍光灯器具の場合、リニューアルキットを用いると反射板だけの破棄で済み、器具ごと蛍光灯設備を破棄するよりも、廃棄量を約40%削減することができます。



リニューアル器具



TENQOOシリーズ リニューアルキットの構造

関連情報

＜ 廃棄・破棄方法（事業者向け）（当社のサイトへリンク）

＜ 廃棄・破棄方法（家庭向け）（当社のサイトへリンク）

   : このアイコンのリンクは、新しいブラウザウィンドウ、または新しいタブを開きます。

本サイトおよび本サイトからリンクする弊社提供サイトでは、ブラウザのアクティブスクリプト（JAVASCRIPT）が有効に設定されていない場合、正常な表示や動作とならない場合があります。

リンクや画像のご利用

＞

東芝ライテック(株)トップページ

＞

個人情報保護方針

＞

サイトのご利用条件

＞

お問い合わせ

＞